

白井市総合教育会議録

○会議日程

平成29年1月27日（金）

白井市役所4階第1会議室

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 議題

(1) 平成29年度分野別施策について

○出席委員

市長	伊澤 史夫
教育長	井上 功
教育委員	石亀 裕子
教育委員	小林 正継
教育委員	高城 久美子
教育委員	川嶋 之絵

○欠席委員

なし

○出席職員

事務局	
教育部長	染谷 敏夫
教育部参事	小松 正信
学校教育課長	小野 義勝
生涯学習課長	鈴木 栄一郎
文化センター図書館長	黒澤 真澄
学校給食共同調理場所長	中島 真五
教育センター室長	榛沢 宏一
書記	武藤 善勇
書記	品川 太郎

午前10時05分 開会

○開会宣言

○事務局（武藤） 本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

ただ今から、平成28年度 第2回白井市総合教育会議を開会します。

初めに、伊澤市長よりご挨拶をお願いします。

○伊澤市長 皆さん、おはようございます。本日は大変お忙しい中、第2回の総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

昨年は、5月に白井市教育大綱を策定して、また、10月1日からは井上教育長が就任されまして、これにより、本市は新教育委員会制度に移行したこととなります。

今後、市といたしましても教育委員会と連携を密にしながら、この教育とまちづくりを一緒に進めていきたいと思っております。

私も小中学校の特別授業、5年目に入りまして、今年度は14校中、既に10校が終わり、残すところ、あと3校となりました。この狙いは、まず一つは、小学校、中学校で社会科の授業において習う政治と経済です。

それを白井市に当てはめて具体的に説明するということと、もう一つの狙いは、子供たちに白井市をよく知ってもらって、好きになってもらって、できれば、ずっとこの白井市で活躍をしていただきたいと、そういうような狙いが込めた授業です。

その授業が終わると、各学校から感想文が来ます。その中では、大変、子供たちが今まで知らなかった白井がよくわかってきたと、興味持ったと。これからも白井について調べて、いろいろなことを知りたいと。

もしくは、この白井市で私たちにできることは何か、あったらやっていきたいと。ボランティア活動もしていきたい、地域でもっと活躍したいと。大変すばらしい感想文をいただいて、本当に将来が楽しみな、白井市だけではなく、当然、国の宝、それから世界で活躍する方もいると思います。

いろいろなところで活躍できるような人材が、本当にこれから楽しみで、わくわくするような、何か私も手応えを感じて、続けてきて良かったと思っております。

ぜひ、そういうことで、教育委員会と行政、私は個人として行っている訳ですけど、そのように学校と一緒にあって、子供たちの将来を育てていって、この国の宝として、魅力あるまちづくりにつながっていけばと思っておりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、2月15日からは、平成29年第1回市議会定例会が開催されます。その際には、本日、議題になっております教育委員会関係の予算についても提案いたしますので、この後、会議で一つ一つ確認をしながら、協議してまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

それでは、本日の会議がスムーズに運営できることをお願ひしまして、私の挨拶といたします。

どうぞよろしくお願ひします。

○事務局（武藤） ありがとうございます。これから議題に入りますが、議事の進行につきましては、会議を主催する伊澤市長にお願ひしたいと思ひます。

それでは、議事の進行につきまして、市長よろしくお願ひします。

○議題（1）平成29年度 分野別施策について

○伊澤市長 はい、わかりました。

それでは、着座のまま進行させていただきます。

早速、議題に入ります。

議題（１）平成２９年度 分野別施策について、事務局から説明をお願いします。

○染谷教育部長 座ったままで失礼させていただきます。

それでは、議題（１）平成２９年度 分野別施策についてご説明いたします。

会議資料につきましては、白井市教育大綱において、四つの基本目標を定めております。この基本目標の達成に向けて、教育委員会における各事業について、平成２９年度の取り組みと現在、予算編成が行われておりますが、平成２９年度当初予算の要求額をそれぞれ記載しております。

また、その他の分野として、前期実施計画事業ではございませんが、教育委員会として、特に取り組む事業として、同様に記載させていただいております。

各事業の説明につきましては、それぞれ担当課等長が順次説明をさせていただきます。

少し時間をいただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、資料に沿って説明をさせていただきます。

１ページでございますが、分野は学校教育分野としまして、教育大綱の目標としましては学校教育の充実ということでございます。

まず、教育総務課の部分から始めさせていただきます。

最初に、教育資金利子補給事業でございます。この制度は、教育支援策の一環としまして、市内の金融機関等から教育資金の融資を受けた保護者等に対しまして、利子の３分の２相当額を助成するものでございます。事業としては、例年どおりですが、周知に努めることとしております。

２点目が、学校給食共同調理場建替事業でございます。より安全で安心な学校給食を提供するため、事業者の決定を受けまして、PFI方式により、新たに整備する共同調理場の整備に関しまして、平成３１年４月の稼働を目指して、基本設計及び実施設計、設計後の建設工事の準備等を行ってまいります。

本件につきましては、昨年１２月１８日において、選定委員会において選定されたものを答申がありまして、市で決定をいたしました。３月の市議会定例会において契約案件を提案いたします。その議決を受けた後、実際には着手することになります。契約期間については、議会の議決のあった日から平成４６年７月３１日まで、運営期間を含め、長期間の契約となっております。

教育総務課分の説明につきましては、以上でございます。

○小野学校教育課長 学校教育課及び教育センター室の部分の説明させていただきます。

１ページ、補助教員配置事業、それと地域人材活用事業でございます。

これらの事業につきましては、前期基本計画に基づく重点戦略事業となっております。

補助教員配置事業でございますが、本事業で学校に配置している補助教員には、小学校３、４年生の算数の授業を中心に配置する少人数指導等補助教員、また、学習障害のある児童生徒や教室に入れない別室登校の児童生徒の対応のため配置する学校補助教員、さらに学校図書館の管理運営や読書指導等を行う読書活動推進補助教員の３種類があります。いずれも児童生徒に対し、よりきめ細やかな指導を行うために配置しているものでございます。

続きまして、地域人材活用事業でございます。

本事業で活用される地域人材には、各学校長の推薦により、市教育委員会が委嘱する学校評議員があります。学校評議員は年間を通じて、授業や学校行事等を参観し、様々な学校運営に対し、校長に意見を述べます。校長は、その意見を学校運営の改善に生かすことができます。

本事業では、他に部活動において技術指導を中心に行う部活動サポーター、また、学校や地域の特色を生かした教育活動を人的、物的に支援する活動があります。

2ページをご覧ください。

教育の情報化推進事業でございます。まず、資料の訂正をお願いします。2ページ、平成29年度の取り組み（予定）の説明文の中に、I T社会という表記がありますが、これをI C T、Cを加えていただいて、訂正してくださるようお願いいたします。

それでは、教育の情報化推進事業について、ご説明いたします。

次期学習指導要領改訂の目玉の一つに、I C T社会に適応できる児童生徒の育成があります。本事業では、I C Tコーディネーターを各学校に派遣し、児童生徒がI C Tに触れる機会を設けています。そのような中で、I C T機器の設置が十分ではないという課題があります。

続きまして、特別支援教育事業でございます。

本市では、この8年間、特別支援教育専門の指導主事を学校教育課に配置した成果もあり、地域や保護者の中では特別支援教育に対する理解が深まりました。個別支援学級に在籍する児童生徒が増加し、毎年学級数も増えております。本事業では、各学校の個別支援学級に個別支援学級介助員を配置し、指導が困難な児童生徒に対し、きめ細やかな教育を行っています。

3ページをご覧ください。

続きまして、学校安全対策事業でございます。

本事業での最も大きな取り組みは通学路の合同点検です。これは教育委員会が市関係課、県の関係機関、警察、各学校のP T Aと連携し、通学路の実態調査を行い、現場の実態を確認した上で、通学の安全性の確保に努めるものです。

その他には、自転車通学者用のヘルメットや小学校新1年生のための安全帽子等の配布、学校環境衛生の検査などを行っております。

以降は、教育センター室長からご説明をいたします。

○榛沢教育センター室長 教育センター室の事業について、ご説明いたします。

まず、A L T配置事業です。

今年度末、新学習指導要領が出されますが、そこには小学校3年生から外国語活動が行われ、小学校5年生から外国語活動が教科となります。本事業では、市内各小中学校に外国語指導助手A L Tを配置し、語学、教育及び国際理解教育の充実に努めてまいります。

小学校における外国語活動の拡充に対応するため、今後、A L Tの増員が必要になると考えております。

続きまして、教育相談事業です。

本事業は教育センター室に配置されている教育相談員が、学校生活や家庭生活等での児童生徒及びその保護者の悩みを電話相談や来室相談で対応しているものでございます。今年度は県の委託を受け、家庭訪問を主とした教育相談員を増員し、機能的な拡充を図りました。

続きまして、適応指導教室事業について、ご説明いたします。

本事業は、本市のひだまり館 2 階に白井市適応指導教室ヤングハートしろいを開設し、不登校児童生徒に対し、指導員が集団活動、相談活動、学習支援などを行い、学校への復帰を図るための活動を行っているものでございます。

続きまして、4 ページをご覧ください。

青少年国際交流事業について、ご説明いたします。

本事業は、白井市と友好都市関係を結んでいるオーストラリアのキャンパスピ市、ブリンバンク市との交流を通じ、青少年の国際理解を深めるとともに、国際的視野を広め、国際交流推進の担い手となる人材の育成を図るものです。

今後の活動につきましては、先方との調整の上、事業を進めてまいります。

続きまして、教育課題調査研究事業について、ご説明いたします。

本事業は、子供の実態を把握し、市の教育課題を的確に捉えるために、学力テストあるいは体力テストなどの各種調査を行い、課題の解決策を教職員に向けて発信するものです。

以上、教育センター室に係る事業内容の説明を終わります。

○小野学校教育課長 学校教育分野として、最後に小中学生の栄養指導事業でございませう。

小中学生の栄養指導、学校教育課に配置している栄養士が給食の時間に各学校を回り、正しい食習慣を形成し、生活習慣病を予防するため、食材や栄養に関する食育指導を行うものです。

新たな学校給食共同調理場の開設に向けて、さらに課題を整理し、内容を充実させていきたいと考えております。

以上で、説明を終わります。

○鈴木生涯学習課長 5 ページをご覧くださいと思います。

基本目標につきましては、生涯学習の充実でございませう。

放課後子ども教室事業でございませう。

これは、放課後対策の一環として、子供たちが放課後に安全・安心して活動できる居場所を地域住民等との協働により、創出するものでございませう。

平成 29 年度につきましては、既に実施しております白井第二小学校、大山口小学校、中木戸公園競技広場の教室について、引き続き実施してまいります。

また、今後、全ての小学校区において、放課後子ども教室の開設を目指しまして、事業を拡充していきたいと考えておりますので、保護者ニーズの聞き取り、さらに協力団体や実施場所などの調査、検討を行ってまいります。

次に、立春式事業でございませう。

これは、市内全中学校の 2 年生を対象に、職業体験や記念式典等を通しまして、社会の一員としての自覚や将来に対する夢を育むというものでございませう。

次に、青少年野外活動事業でございませう。

これは、小学 5 年生から高校 3 年生までを対象として、5 泊 6 日の野外活動、キャンプ生活を実施するもので、房総アドベンチャーという名称でございませう。

6 ページをご覧くださいと思います。

子どもワンパク大会事業でございませう。

これは、市内の青少年育成団体等による実行委員会を組織し、大会を通じて、子供たちの相互の親

睦や友情を深めるとともに、子供たちと団体等の世代間交流を図ることにより、青少年の健全育成を行うものでございます。

なお、実施場所につきましては、小学校の輪番により実施する予定です。

次に、家庭教育事業でございます。

これは、各小学校の就学前検診時に、保護者を対象に家庭教育講座を実施します。合わせて、ステップアップ講座も年3回、開催します。これらの講師の選任や講座のテーマ、内容につきましては、十分検討して、見直しを行ってまいります。各講座では、受講者にアンケート等を実施しておりますので、その結果を次の講座に生かしてまいりたいと考えております。

続きまして、子どもしごとフェス事業でございます。

これは、今後、子供たちが好きな職業を体験できる機会をつくり、社会の仕組みや職業観、勤労観を育成するため、既存事業を活用した事業展開の検討を行います。平成30年度から、事業を実施する予定です。そのため、平成29年度の予算要求はございませんが、新たな事業を実施することになりますので、既存事業の活用や事業の協力者を確保するなど、十分検討して、効果的な事業が展開できるよう進めてまいりたいと考えております。

次に、7ページをご覧ください。

白井市民大学校事業でございます。

これは、市民に様々なテーマで学習する機会を提供し、心身の健康や地域での仲間づくりなど、地域活動に意欲を持って活動する人などを増やすこととしております。平成29年度も、健康生活学部、シニア学部、しろい発見学部、これらの3学部を開設することとしております。

近年、市民大学校の受講生につきましては高齢化が見受けられ、今年度は例年になく受講生が減少したという状況がございますので、今後、事業を実施する上での課題と考えております。そのようなことで、市民大学校の受講を希望する市民が増えるように、より目的意識を持てるような講座やプログラムの構成、受講生が卒業後、市民大学校で学習した成果を地域社会や行政との協働により、活躍できる場を設ける仕組みづくりなど、改善に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えます。

生涯学習課の説明につきましては、以上でございます。

○小松教育部参事 続きまして、文化課所管分について、ご説明させていただきます。

図書館サービス推進事業でございます。

これは、市民の生涯学習を支援するため、知識と情報を提供し、様々な利用者層や利用目的に対応したサービスを行うものでございます。

具体的には、市民の求める事項につきましては、資料や情報の提供を専門職であります司書が、相談に応じ案内をするレファレンスサービスの充実や高度化に努めてまいります。また、関係機関と連携協力を図りながら、豊富な蔵書を揃える身近な情報拠点として、課題解決の支援ができるような図書館運営を進めてまいります。

続きまして、8ページをご覧ください。

図書館資料整備事業でございます。

これは、市民の求めに応じるため、図書館資料の充実を図るとともに、最新の新聞情報等、データベースなどの提供に努めてまいります。

続きまして、プラネタリウム館運営事業でございます。

これは、ライフステージに応じた独自の天文番組を作製、上映し、学校教育や生涯学習の支援に努めてまいります。また、憩いの場となるような各種プログラムも提供していく予定でございます。

以上で、生涯学習分野、生涯学習の充実についての説明を終わらせていただきます。

○鈴木生涯学習課長 9ページをご覧くださいと思います。

基本目標につきましては、スポーツの振興でございます。

まず、総合型地域スポーツクラブ支援事業でございます。

これは、設立初期段階のしろいチャレンジド・スポーツクラブへの3年間にわたる財政支援がございますけど、平成29年度は最終年度となりますが、引き続き支援をさせていただきます。また、スポーツクラブの活動場所の確保などを支援するとともに、スポーツ指導者の養成講座を実施し、指導者の育成を図ってまいります。

総合型地域スポーツクラブは、クラブによって、会員数の減少であるとか、会員数が伸び悩んでいるというクラブがございますので、各クラブの紹介や各クラブ事業の実施の紹介について、市のホームページや広報紙などでPRを行いまして、誰もがクラブに参加しやすいというような体制づくりをバックアップしていきたいと考えております。

続きまして、各種スポーツ大会開催事業でございます。

これは、スポーツの普及振興、市民の健康と体力の保持増進などを図るため、梨マラソン大会、スポーツフェスタなどを開催するとともに、市の体育協会との協働により、各種スポーツ大会を開催してまいりたいと思います。

以上で、スポーツ分野、スポーツの振興についての説明を終わらせていただきます。

○小松教育部参事 10ページをご覧ください。

文化芸術活動の支援につきまして、各事業の説明をさせていただきます。

まず、市史編さん事業でございます。

これは、市制施行20周年を迎える平成33年度からの事業着手を念頭に、編さん方針や編さん計画の検討、資料収集のための収蔵庫の確保、さらに職員などの調査体制の整備について、調査、検討を進めてまいりまして、実施計画等に位置付けながら、事業を進めていきたいと考えております。

続きまして、文化財調査事業でございます。

これは、江戸時代の末期の牧士を務めました富塚、川上家所蔵資料を中心に古文書調査を実施するものでございます。

続きまして、文化財保護・周知事業でございます。

これは、市内に国・県・市指定文化財は40件ほどございますけど、これらの修理・管理補助事業や文化講演会の開催、指定文化財説明看板の設置など、周知事業を実施してまいります。

続きまして、埋蔵文化財・文化財記録・保護事業でございます。

これは、開発に伴う遺跡の発掘調査や出土品の整理、また、過去数年間にわたり発掘調査を実施してまいりましたが、これらの成果報告書の刊行を予定しております。

続きまして、文化を支える人材育成支援事業でございます。

これは、市民主体の文化・芸術活動を市民協働により進める文化団体協議会の活動を支援することとしております。まだ発足3年と間もないことから、今後とも、より多くの市民が活発に活動できるよう、市と連携を深めながら支援していきたいと考えております。

続きまして、市民文化祭開催事業でございます。

これは、市民に文化・芸術活動成果発表の場及び鑑賞の場の提供を目的に、実行委員会方式で文化祭を開催しております。引き続き、平成29年度も実施する予定でございます。

なお、学校部門の発表につきましては、庁舎建設等の関係がございまして、平成29年度は白井コミュニティセンターでの開催を予定しております。

11ページをご覧ください。

市民学芸スタッフ古文書修補活動事業でございます。

これは、市民ボランティアによる古文書の修補作業を継続して実施してまいります。

続きまして、郷土資料館展示・普及事業でございます。

これは、市民に市の歴史・文化を知り、学ぶ機会を提供するための常設展示や企画展の実施、郷土史講座、古文書講座の開催や子供を対象とした体験教室などを実施します。

また、活発にご利用いただけるように、PR等を通じて利用促進に努めてまいりたいと考えます。

最後になりますけど、文化会館自主事業運営事業でございます。

これは、文化会館運営委員会の意見を参考にしながら、市民の皆さんに優れた芸術文化に接する機会を提供してまいりたいと考えております。

以上で、文化芸術分野、文化芸術活動の支援についての事業の説明を終了します。

○染谷教育部長 それでは、12ページをご覧ください。

その他として分類しておりますが、前期実施計画事業ではございませんが、特に取り組む事業について掲載をしております。

最初に、小中学校エアコン設置事業でございます。

これは、学習環境の改善を図るため、整備時期は未定ですが、財源の確保や課題の整理ができましたら、すぐにでも着手できるようエアコンの設置に向けた事前準備を行ってまいりたいと考えております。

また、設置の準備に当たりましては、エアコンの整備方法、手法などを調査するとともに、PTAや教員等の関係者と協議、調整を行ってまいります。この設計については、予算措置はございませんけど、市職員で十分対応できると考えております。

次に、大山口中学校増築事業でございます。

これは、生徒数の増に対応するため、学校敷地内に図書室を増築し、既存の図書室を普通教室2室に改修するものでございます。事業スケジュールにつきましては、平成29年6月から11月までの間、図書室棟の増築工事を行いまして、その後、既存図書室の引っ越し及び図書室の改修工事を行った後、平成30年度から、普通教室2室の供用開始を予定しております。

次に、七次台小学校増築事業でございます。

これも児童数の増に対応するため、学校敷地内に図書室を増築して、既存の図書室を普通教室2室に改修するものでございます。事業スケジュールにつきましては、平成29年度に図書室の増築工事等に係る実施設計を行い、それから平成30年度に図書室棟の増築工事、その後、既存図書室の引っ越し及び改修工事を行いまして、平成31年度から、普通教室2室の供用開始を予定しております。

次に、小中学校施設長寿命化計画策定事業でございます。

こちらにつきましては、事業自体がございませんので、予算措置もございません。ただし、早急に

整備をしていく必要がございますので、良好な学校施設環境を計画的に整備・維持するため、市職員独自の取り組みとして、小中学校施設長寿命化計画の策定に向けた準備を行ってまいります。この計画の策定に当たっては、学校、PTA等の関係者との協議、調整も行ってまいります。

以上で、教育総務課所管分の説明を終わります。

○小野学校教育課長 続いて、学校教育課、幼稚園・保育園・小学校連携事業でございます。

これは、幼稚園、保育園、小学校1年生の教諭間で、教育・保育の状況について情報を交換し、児童の指導に役立てるものです。会議は、年間2回、実施しております。

続きまして、13ページをご覧ください。

学校保健推進事業でございます。

これは、児童生徒及び教職員の健康の保持増進と疾病予防のため、健康診断を実施するものでございます。また、学校医及び学校歯科医に対する報酬については、数年間にわたり、見直しを行ってまいりましたが、この度、その調整が済み、平成29年度より現行の診断実施に、より即した報酬制度で行われる予定です。これにより、児童生徒一人一人に対し、さらに丁寧で確実な診断が行えるとともに、医師の負担軽減にもつながると考えております。

○榛沢教育センター室長 教育センター室の事業について、ご説明させていただきます。

まず、教職員研修事業でございます。

これは、教職員の資質、能力の向上を図るため、外部講師を招くほか、市教育委員会の指導主事あるいは市校長会が中心となり、特に若手教員の指導力向上に努めるものです。平成29年度は、市内の教職員を講師とする回数を増やし、指導する側の資質の向上も進めてまいります。

続きまして、教育情報提供事業でございます。

これは、文献や国、県の教育機関のホームページ等により、学校現場や保護者に有益な教育に関する情報を収集し、教育センター室報や教育センター室ホームページ等により、必要な情報を提供していくものでございます。

以上で、説明は終わります。

○鈴木生涯学習課長 続きまして、生涯学習課、ニート・ひきこもり対策事業でございます。

これは、様々な事情を抱えて外に出られなかったり、働く意欲の湧かない15歳から39歳までの人、またはその保護者や家族を対象に、月1回、精神保健福祉士による相談会を開催するものでございます。

すみませんが、資料の訂正をお願いします。資料では、月2回となっておりますけど、月1回に訂正するものでございます。

14ページをご覧いただきたいと思います。

市民プール管理運営事業でございます。

市民プールにつきましては、引き続き指定管理者による管理運営を行ってまいります。この市民プールにつきましては、平成3年度にオープン後、既に25年を経過しており、老朽化が目立つようになってきたスライダーにつきましては、利用者が安心して施設を利用できるよう、老朽箇所の調査を行い、改修に向けた実施設計を行うものでございます。

市民プール全体につきましても、大規模な改修が必要な状況になっております。この大規模改修につきましても、スポーツ振興くじ、t o t oになりますけど、この財源確保など、財政面を念頭に置

きまして、今後、改修計画の策定や改修時期について、検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○小松教育部参事 続きます、15ページをご覧ください。

文化課、文化センター管理運営事業でございます。

これは、文化センター施設、設備の管理を行い、来館者の安全確保を図るとともに、センター各施設が円滑に運営できるよう努めていくものでございます。また、開設後、23年を迎えることから、老朽化している設備等が目立ってきております。今後は、計画的な修繕工事を行うため、修繕計画の策定に向けて、準備を進めてまいりたいと考えております。

以上で、文化課の説明を終わります。

○伊澤市長 ありがとうございます。

まず、この会議の進め方を確認します。委員の皆様には、本日の会議で取り上げたい事業について、示していただき、順次、協議を行いたいと思います。

それでは、会議資料に沿って、教育大綱における四つの基本目標とその他についての項目ごとに区切って、ご意見やご質問等を伺っていきます。

最初に、学校教育分野の基本目標、1学校教育の充実について、ご質問やご意見等がありましたらお願いします。

発言する場合には、挙手をお願いします。

○井上教育長 まず、この学校教育分野の事業につきましては、私も学校に在籍した時の思いもございまして、どの事業もなくはないものです。

特に、重点戦略としている補助教員配置事業、地域人材活用事業、このことにつきましては、一つは人手が多くなって、よりきめ細かに子供に対応していけるという大きなメリットがありますけど、その他に学校の先生以外の方々、地域の方とか、市民の方とか、そういう方々から指導を受けるということで、教員とは違う特性や資質を持った方々の指導を受けることやまた、交流できるという大きな意味がある事業であると思っておりますので、今後とも、ぜひ重点事業として進めていきたいと思っています。

これからの課題としては、各学校における取り組みや利点を全部まとめていって、白井市として、この事業の活用をより効果的にするためにはどうすればいいだろうという観点をもって、そういう研究に取り組んでいく必要もあると思います。さらに、充実、発展させるために考えています。

○伊澤市長 ありがとうございます。

その他、ご意見、ご質問等はございますか。

○石亀委員 学校教育課の部分で、ICT関係に力を入れていくという説明がありましたが、文科省から、平成29年度に研究指定を受けている教科はありますか。ありましたら、教えてください。

○小野学校教育課長 文科省からの研究指定はございません。千葉県でいうと、南山小学校が安全教育についての指定を受けております。あとは、福祉教育で白井第二小、白井中、それと白井高校、これらが小中高連携による福祉教育について、取り組む指定を受けております。

○伊澤市長 よろしいですか、続けてください。

○石亀委員 今年度、大山口小学校では、大変立派な授業だったと聞いております。昨年も、白井第一小学校で立派な授業があったと思います。細かいところはわかりませんが、指定を受けていると。

2年間とか、そういう指定としては、南山小の安全教育、福祉教育としては小学校と中学校と高校という位置付けでいいですか。

○小野学校教育課長 本年度の大山口小、昨年度の白井第一小とは別の指定になります。福祉の方は、白井第二小学校と白井中学校と白井高校ということになります。

○伊澤市長 はい、続けてどうぞ。

○石亀委員 国際交流に関してですが、先方のオーストラリア側も予算等、また、インフルエンザだったかどうかわかりませんが、健康関係の事情で、時期をずらすとか、人数を減らすとか、中止だとか、そういったことが最近あったと思います。

実際、国際交流に関しては、市側の事情、先方の事情ということを考えて時に、これからは活発化していくのか、ちょっと停滞していくのか、そのあたりの見通しというものは、現時点ではありますか。

○榛沢教育センター室長 青少年国際交流事業でございますけど、オーストラリアから受け入れる際に、だんだん人数が減っている現状がございます。それに対して、本市は30名派遣をさせて、ややオーストラリア側からは、大体、同等程度の人数にさせていただきたいという意見も聞いております。

平成29年度につきましては、本市は少し派遣の人数を削減していく方向で考えております。

また、派遣した一部の児童生徒ではなくて、なるべく多くの児童生徒が関わることができないのかと、現在、考えている状況です。

以上でございます。

○伊澤市長 他にございますか。

○高城委員 2ページの特別支援教育事業ですけど、8年間の成果が出ているということで、児童生徒の支援人数の増加、学級数も増えているということは、そういう支援が必要な児童生徒が増えているのか。

それとも、職員数が増えたということで、以前は普通教室のクラスだった児童生徒が支援に入って、手厚い授業を受けられるということか。どちらが多いでしょうか。

○小野学校教育課長 これは、保護者の理解が進んだということが一番だと思います。

これまで、普通学級で学習していた子供たちでも、なかなか学習、生活の向上という点で難しさを抱えている子供たちがいたということが現状です。

これまでは、その子の特性であったり、あるいは成長のスピードであったりということで流されていた部分もあったと思いますが、特別支援、発達障害等を含めて、そういった理解が、指導主事の根気強い指導、助言により保護者の理解を生み、その子供たちのより適性に合ったきめ細かな指導ということで、保護者から、特別支援学級の方でうちの子供は学習できないのかという申し入れが増えてきたという結果でございます。

○高城委員 ありがとうございます。続けてもよろしいですか。

○伊澤市長 はい、続けてどうぞ。

○高城委員 4ページの栄養指導事業ですけど、これからもぜひ市内の栄養士さんに指導していただきたいと思います。まだまだ残飯数が、特に小学校低学年は多いということを聞いております。

これから、新しい給食センターが完成する際には、本当に残飯ゼロを目標にさせていただきたいと思っております。

あとは各学校、栄養士さんが一緒に食事をすることによって、本当に家族で御飯を食べる機会も少ない。そして、お箸の持ち方、食事のマナー、なかなか家庭では指導できません。あとは、お惣菜ができていますので、手づくりの食事も本当においしいものを食べる子は少ないということで、ぜひ、この小中学校の栄養指導を活用していただきたいと思います。

○伊澤市長 課長、何かございますか。

○小野学校教育課長 はい、より充実した取り組みになるよう努力してまいります。

○伊澤市長 その他ございますか。

○小林委員 ALT配置事業でございますが、英語教育の早期化で、外国人の果たす役割は大きいと思いますけど、併せて、今は小学校の教諭が兼ねて担当しています。英語の指導を受ける場合、日本人もだんだん専科というか、そういう人が必要になってくると思いますけど。

その指導の中で、私は落ちこぼれがなくなってほしいと。もう小学校段階で出てくるのではないかと、ちょっと心配があります。英語ができるように指導していく際に、その落ちこぼれをどうするかということも早めに対策を考えながら、外国人あるいは日本人の英語を担当する教員等に考えてもらうということで、それを補助するようなところも恐らく必要になってくると思いますので、早めに先を考えていただきたいと思います。

以上です。

○伊澤市長 この件について、センター室長。いかがですか。

○榛沢教育センター室長 小学校の英語教員の資質、能力に関しましては、県の教育委員会もいろいろと考えてくださっておりまして、昨年度から市内3名の教員が、大学で3日間の講習を受けております。本市も、その3名を出しております。これは、不確定な情報ですけど、来年度、県も小学校の教員に英語の二種免許を取らせるような、県の負担でという話もお聞きしており、そういう動きがあります。

小学校の教員の資質、能力は、本当に私たちも確実なものにしないといけないと思っておりますので、教職員の研修授業などでそういった英語研修を取り入れていきたいと考えております。

○井上教育長 加えてですけど、私が知っている情報の中では、この英語学習の小学校での先取り、低学年からやっていくこと。これは全国的にもモデル地区があって、既に実施している地区は他市でありますね。その中で、一番の課題は、小林委員が話した部分で、小学校3年生とか4年生で、早く英語を教えることによって、早く英語が嫌いになってしまう子供ができるということです。

そういう危険性が、今までのモデル地区でやっているところでは指摘されています。モデル地区で、非常に力を入れてやっているということもありますけど。逆に、中学生になった時に、いまいち意欲が少なくなってしまうというような調査結果も出ていますので、これからは学習指導要領の改訂に伴って、全小学校で進めるところですけど、本市としては、その辺のところは十分に注意していきたいと考えています。やはり早く教えて、英語嫌いを早くつくってしまったら、一番いけないところであり、そこをまず、一番のポイントとして進めていきたいと思っています。

○伊澤市長 よろしいですか。

○小林委員 はい。

○伊澤市長 その他、学校教育分野でご意見等はございますか。

なければ、私から、今、白井第二小学校が大変で、地域の特性もありまして、人数が減ってきてい

ることがあります。今年は確か95名ですか。いろいろな事情、通学路の問題、あるいはそれ以外の問題で白井第二小学校の学区ではあるけど、他の学校に通っている児童もいるということも聞いております。

私としては、白井第二小学校、伝統のある古い学校で、昭和10年ですか、第一小と第二小が開校した当時の学校で、地域コミュニティの中心でもあるということですね。大変、重要な役割を担った学校だと思います。

ですから、私も各学校を回って、その学校の特色というのはよくわかりますが、第二小においては、学校の地域の特徴を生かして魅力のある学校にさせていただいて、いろいろな事情、物理的な事情はあると思います。通学路の危険とか、それは行政の方で一生懸命解決するように努力しますので、教育委員会におかれましては、第二小の魅力をもっと高めていただいて、本来の学区である子供は第二小に通えるようにしたいと思っています。

これは欲をいえば、他の学区からも第二小に通ってみたいと、そう思えるような学校にさせていただければと思っていますので、よろしくお願ひしたい。教育長から何かありますか。

○井上教育長 市長さんが、その辺のところをご心配されるというのは、当然、他市の状況では学校規模適正化計画というものが出されていて、在来地区においてはかなり進んできています。

北総地区においても、北総の中には印旛、香取、海匝という地域がありますけど、ほとんどの市町が適正化、結果的には学校を減らすというところに、まさに今取り組んでいるところです。

来年度からは、北総の中でもかなりの学校数が減っていく見込みが出ておりますし、これからはどんどん学校が閉校するということが進んでいく中で、市長さんがそういうお気持ちを話されていると思います。

白井第二小につきましては、私も白井中に在籍してまして、学区の小学校でしたので、よく訪問させていただいたけれど、私が見る限りは子供たちが非常に生き生きして、小規模の良さが非常に生かされていると思います。

各学年において、10人未満の学年はないので、10人、20人弱という規模で、ある程度のグループ活動、集団活動もできておりますし、これが10人を切って、私も4人とか5人の学級とかは見たことがありますけど、そうなると、やはり集団としてどうなのかという部分が出てきてしまいます。まだ、十数人で集団活動等ができておりましたので、今は小規模校の良さというものが非常によく発揮されているなど。学力、行事、体力、いろいろな面で伸びているという結果もあります。

確かに、やはりニーズが大事なことで、第二小ではない学校を選択するという部分については、幾つかの要因はあると思いますけど、今度、学童保育が第二小にできますかね。そういう条件も整備しながら、特徴をもっと出すということと、あとはPRをするということで、必ずその成果は出ています。

少人数学校、小規模学校の良さが出ていますので、その辺をPRも必要かなと思っています。

○小林委員 その地域に住んでいる私の観点ですけど、このままでいったら、やはり過疎になって、統合の方向に行くのではと思っています。確かに子供の教育というか、心の教育においては素晴らしいですけど。

それでも、七次台小と桜台小に近いところは、確実にそちらに行こうとしています。ややもすると、中央付近にいる方ですか、親がこちらの地域に勤めていると、そちらの方に通わせたいと。

これは昔からです。やはり、田舎よりも都会志向というか、将来の進学等を考えると、田舎では遅れるというか、そういう思考が働くというか。そのためには、どうしても自然とそちらの方に流れていくと。

あそこは農業地域で、開発ができない地域になっているということで、あそこをやはり活発にしたいという思いが個人的にはあります。市全体の教育方針もあると思いますけど、あそこには工業団地もありますし、何らかの形で、あそこが普通の開発工事ではなく、何か良い意味での発展というか、そういうところになり得る地域ではと思っています。

けれども、そこに住んでいる人の意識というものは、意外と遅れています。

例えば、私がこんなに人口が減っていけば、将来はどうなるのかと言っても、まあ、仕方がないという感じです。つまり、そこに住んでいる人たちは、あまり人口が減ることについて、そんなに危機感を感じていない面があります。

これが、たくさんの方が騒ぎ出せば、それにつられて、そう思うと思います。

ですから、私はあその地域と、他の地域との交流というものを、外部の目を見て、第二小にはそういう良いところがあって、畑にも行ってみたいとか、そういう交流ができるような何かシステムというものをつくって、あそこにいる人たちだけで考えていたら、絶対、過疎になっていくという気はしています。

だから、白井市全体として考えても、いろいろな面で、あそこは一つの発展地域と考えてほしいと思いますので、市全体の発展につながるような意味で、あそこでまちづくり協議会ができるという、まちをつくっていくという方針も伺えたので、白井市全体のことを考えた上で、あその発展というものは、必要だというような観点を何か入れてほしいと。

それは、あそこにいる人たちを集めて、賛同しろといっても、なかなか厳しいと思います。

あその地域で、例えば都会の人はタケノコなどをこうやって体験したいと。でも、そこにいる人たちの発想では、そのように提供するということが普通考えないです。自分たちの仕事で手一杯ですよ。だから、そこをコーディネートするようなものがが必要です。

同様に、やはり学校教育についても、外部の人の目も入って、外部の人たちから、こうしたらいいのではということ地域の人に考えてもらって、それが市全体の発展につながるような、学力面についても、少ないから遅れるということにならないように、いろいろなことを考えていくのに、工業団地もあるし、もっと利用できるのではないかと。何か創造的な発想を考えてほしいと思います。

以上です。

○伊澤市長 ありがとうございます。先ほど、教育長から話があったように、わが国の少子化、人口減というものは初めて迎えます。過疎というものは昔からあったと思いますね。今までの学校教育に関して言えば、その過疎地域の対応というものは、恐らく学校の統廃合が手法だったと思います。

ただし、新しいこれからの社会の中で、今までのやり方が正しい学校教育なのかということは、私は疑問に思っています。これから、どんどん人口が減っていく中で、やはりそれに沿った教育というものはあると思っています。

確かに第二小、本当に人数は少ないです。授業に行って、6年生は十何人しかいない。多い学校は100人位います。その中でやっていくと、一番良いものは少人数だから、個々と向き合って、いろいろな質問とか、意見を聞くことができる。人数が多い学校は、あらかじめ代表者が決められてい

て、時間がないところでやるという、やはりメリットもあるし、デメリットもあると思います。

ですから、極端に人数が少なくなって、一つの学校では、もう5人とか10人とか、複式でやらないとできないということであれば、それは仕方ないと思います。白井は、今まで平塚分校では複式学級も経験しています。ですから、少なくとも平塚分校、当時は恐らく50人、40人位で学校が存続していた訳ですね。そういう経験もありますので、小規模であれば小規模の教育というものは、必ずあると思います。

ですから、それを教育委員会では考えてもらいたい。小林委員から指摘があったように、まちづくりとして、先ほど言われたように、第二小学区はかなり広い地域ですので、学校を中心にずっと地域のコミュニティーができていた訳ですね。ですから、まちづくりという観点も大事で、学校はそこに位置を占めているという大きな位置付けもありますので、教育の観点、地域づくり、さらに小学校単位のまちづくりを進めている訳ですから、そういう観点もあります。

ということで、地域のシンボルでもあります。いろいろな観点を合わせていくと、やはり学校は大事だなと思いますので、ぜひ教育委員会と市長部局が一緒になって、小林委員の言っているような、まちづくりという観点での教育をやっていかれたらと思います。

今日はこういう話ができ、すごく良かったと思います。ぜひ、こういう小規模の対応、また大規模にもかなり難しいところもありますけど。だから、学区を分けたりしている訳ですから。

やはり、いろいろな対応が必要だと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、学校教育分野については以上で終わります。次に生涯学習分野に入りたいと思います。

この分野について、何かご意見、ご質問等があればお願いします。

○川嶋委員 私はコーディネーターとして、放課後子ども教室事業に携わっていますけど、間もなく1年を迎えるので、本当に試行錯誤の1年だったけど、やはり伸び悩みといいますか、こちらもいいことをやっているつもりではいますけど、来る子供が定着してしまっていることとか、あと女子の児童が全く来ないです。そういうところの対策であるとか、いろいろとこれから協議していかなければいけないと思っているところです。

私がやっていて、大変いいなと思っていることは、保護者がたまに付き添いで来てくださるお父様がいらっしゃいまして、何でその曜日に来るのか、わからないですけど、子供に熱心にサッカーを指導してくださっています。お父様だと思いますけど。そうやって、ただ遊ぶだけではなくて、そういう技術指導というか、指導してくれる大人がいるということは、大変ありがたいと思います。

また、そういうものを見ている子供も刺激を受けて、楽しそうだな、やってみたいな、入れてということも起こっています。子供だけで遊ぶ、それをただ私たちが見守っているという状況、安全を見守ることも大事なことですけど、やはり子供と関わって遊ぶ大人がいるということも、この事業の魅力につながる大きなポイントかなと思いますので、そういう新たな展開を来年度はしていけたらいいのではないかと思います。

また、そういう実績を残すことで、他の地域にも広がっていくと思いますので、今やっていることと、変わった取り組みを来年度はしていけたら、皆さん、委員間で検討していけたらと思います。

やっていること自体は、大変、場所の有効活用にもなっておりますし、子供たちは冬でも半袖になって遊ぶほど、本当に楽しく活発に元気に遊んでいて、とてもいいことだと思います。

あと、もう一点ですけど、外部の学童、個別支援を受けている子供たち、大山口中学校区と七次台中学校区のお子さんを集めたエブリーさんがありますね。そこのお子さんたちを、先生が車で、その競技場へ連れてきて、遊びの時間としています。それは、すごくいいことだなと思ひまして、私も地域の小学校の子供たちと、個別支援を受けている子供たちですけど、1年を通して関わっていると、この子はこういう特性があるということで、一緒に遊んだりしています。先生も、見てもらってということで、ちょっとしたフォローのやり取りで、お互いにいい感じで、競技場もにぎやかになりますし、とてもいい感じで進めています。

自由参加でもいいですけど、積極的にそういうところの団体などに呼びかけて、やっていくのもいいかなと思ひながら、放課後子ども教室として、そういう学童も含め、いろいろなところの観点から協議して行って、さらに厚みの増したい事業になるような展開をしていきたいと考えています。

○伊澤市長 ありがとうございます。川嶋委員の意見や考え方について、執行部で何かございますか。

○鈴木生涯学習課長 中木戸公園競技広場において、実施している放課後子ども教室でございます。

これは、当初、キャッチボールとか、サッカーなど、ボール遊びができる場所がないということで、自由な遊びを展開できるように、子供たちが自分たちの発想の中で、活動していただくという形で運営していました。

子供たちが、自分たちの工夫の中で、なかなかできない状況というものは、正直見受けられます。

本来、自分たちで何か工夫をしてもらって、やってもらえればいいですけど、なかなかそれができないということも伺っておりますので、委員が言われたように、安全管理員ですか、今回協力していただいた方の中には、スポーツ少年団の役職をやった方がいらっしゃいます。

その方は、野球でございましたけど、その他にはサッカーの経験があり、またスポーツ少年団で経験された方がいらっしゃるということもありますので、そういう方々にも、今後は協力をしていただいて、単なる安全管理ということではなくて、いわゆる学習アドバイザー的な役割もお願いできるようなことがあれば、子供たちが集まってくるような活発な活動ができると考えています。

その辺については、改善が図れば、改善していきたいと思ひます。

○伊澤市長 川嶋委員、よろしいですか。

○川嶋委員 実行委員会の組織自体は、私たちコーディネーターが2人、あとは安全指導員と学校長と事務局です。やはり、校長先生も会議となると、どうしても会議を開いてくださいとは言いにくいところがありますけど、その辺をどうしたらいいのかなという悩みがありつつ、私はもう少しまめに連携しながら、委員間でどうしたらいいということは、次年度が来る前に、早い段階で協議の場を持ちたいという希望がありますので、よろしくお願ひします。

○伊澤市長 他にございますか。

○染谷教育部長 放課後子ども教室については、今後、市として拡充をしていくということで、方針立てをしております。現在、3箇所で行っていますが、これについては継続をしていただいて、もっと広い意味で、いろいろなところで活用できればと思ひています。

市全体への普及ですけど、これは、まずは協力していただける市民の方、あるいは特に団体ですけど。私どもが考えているのは、総合型地域スポーツクラブ、それも非常に参加者が余りない。それからスポ少とか、会員の子供たちがなかなか入ってきてくれない。それから、今は外遊び中心ですけ

ど、室内、文化芸術の関係でございます。これは学校の教室を使ったりとか、学校との調整も必要になってきます。

ですから、スポーツ、外遊びだけではなくて、文化芸術、子供たちにも体を動かすことより、絵を描きたい、あるいは何かをつくりたいという子供たちもいます。ですから、公民館とかで、サークル活動している方々を、ひとつ声をおかけして協力していただければ、各学校の持ち回りで各講座みたいなものをしていただければ、子供たちの関心も高まりますし、外遊びだけではなくて、今週は中で、例えば将棋を習ったから、来週は外で今度は野球を習おうかなと、いろいろなバラエティーに富んだ仕組みづくりです。

既存の団体、これも課題を持っています。子供たちがなかなか入ってくれない。総合型については参加者が少ない。そういったことを逆に利用して、そういった方々をコーディネーター、協力団体として活用して、普段からそういう団体との交流を持って、興味を持っていただいて、将来の会員なり、選手になってほしいというような仕組みづくりですね。

それから、文化団体は当然もっと幅広い意味で協力していかなければならない。

ですから、会場の問題、これは学校の校庭だけではなくて、教室の活用の問題、まだまだ課題はいっぱいありますけど、そういった仕組みづくりをしていきたいと考えています。

放課後子ども教室だけに視点を当てる訳ではなくて、他のいろいろな事業、団体と一緒に、市として子供たちを育てていきたい。あるいは子供たちの成長を見守っていききたいと、そういった仕組みづくりを1年かけて、準備をやっていきたいと思います。

以上です。

○伊澤市長 川嶋委員、よろしいですか。

○川嶋委員 今話を聞いて、すごく夢と希望が本当に膨らみましたけど、私自身も子供がいますので、連れていきたいとは思いますが、仕事の都合で連れていられない。

実際に、我が子にいらっしゃいと言える距離ではないです。今やっている競技場広場ですと、大山口小学校のお子さんがもういっぱいかなという、安全面から考えても。そういうところで、各校であったりとか、あとは芸術文化というところですけど、私がエブリーさんの子供たちと遊んでいる中で、秋になると、葉っぱで遊んでみたりしてあげると、すごく喜んで興味を持って、何かをつくったりとか、お花を摘んだり、そういうことは興味がありますね。

ですから、ボール遊びをしたい子は、ひたすらボール遊びをしていますけど、それ以外の子供も、この競技場でボール遊び以外のことができない訳でもないです。ごっこ遊びもできますし、お花摘みもできますし、葉っぱ遊びもできますから、やはりその辺を提供しないと。

もうそういう時代なので、自分もそういうところも工夫しながら、そういう展開があるのはすごくいいことだと思いますので、この競技場に限らず、いろいろな視点から、子供たちのニーズに合った教室になるようにコーディネートしていきたいと思います。頑張ります。

○伊澤市長 ありがとうございます。

生涯学習分野、他にございますか。

○小林委員 先ほど、市民大学の受講生が減ってきているという話を聞きましたけど、いろいろな活動をしている人がきっと、市民大学に行ったという人もいますね。ですから、卒業した人にアンケート調査を行っているのかどうか、そういうことはわかりませんが、その後、何か奉仕活動をしてい

るのかということも1回行ってみたいかなと思います。これは、文団協に属している人、あそこにもできるだけ地域で活動しようとか、そういう流れがあると思いますけど、今いろいろな活動している人たちの実態を把握して、その人たちからアンケートを行うと。その後、何をしていますか、どんなことをしていますかと。

それで、本人から答えられない部分もあるので、例えば同じ仲間とか、他の推薦でもいいですけど、あの人はあんなことをやっているとか、そういうことを把握して、いろいろと登録したものでもいいですけど、その登録名簿の内容を充実させると。

昔、学校時代に小さな親切運動があって、それは学校でそういうことをやっている生徒を推薦して、それで認められると、何々賞とかに該当するということで表彰していましたが、そういう何かの大会、いろいろありますよね。ボランティアや福祉大会とか、そういう時に表彰していると思いますけど、それに合わせて、よく活動している、よく地域奉仕している人を把握したら、それを推薦してあげるとか。そういうことで、表面にいろいろとやっていることが出てくるようにしてあげたいと思います。

そのためには、まず市民大学校に行って勉強すると、将来あなたもなれますという感じで、そうすると、もっと市民大学校で勉強したいと思う人が増えるかなと思いますので。

何か、いろいろと工夫ができるのではないかなと思います。

○伊澤市長 いかかですか。

○鈴木生涯学習課長 小林委員が言われたように、卒業生に関しては、各学部の何期ごとに、グループをつくっていただくようなことを誘導しております。そういう中で、これまでも活動団体といえますか、卒業生でグループをつくって活動されていると。それは、ある程度把握をしています。

私どもは、今後より一層それを把握したいということを課内で話をしまして、いわゆる追跡、これまでの卒業生の追跡調査ですか、どんな活動をしているのかと。追跡調査をさせていただいて、随時、状況を確認させていただくということはしていこうと思っております。

既に、卒業して団体を構成されている方々の中では、白井梨マラソン大会での協力、それから子供ワンパク大会ですとか。あとは都市公園の管理です。これは市から業務委託になりますけど、そういうところの管理をしたいという団体もできております。

受講生の中では、既に卒業された方々を講師として招いて、活動内容などを学習させていただいているような状況もあります。そうした中で、今言われたように、今後意欲を持てるように、そういう団体がありましたら、市でも卒業生の活動状況のPR等も進めていきたいと考えております。

以上です。

○伊澤市長 他にございますか。

○染谷教育部長 市民大学校、先程の放課後子ども教室と同じですけど、今の市としての事業、あるいは市が困っているものはたくさんあります。教育委員会にしても、図書館のボランティアが非常にいないと。ですから、逆に言うと、市民大学校の中で図書館ボランティアを育てるという構造をつくっていくと。そうすると、そこに集まってくる人たちは、今ほとんどが高齢者ですけど、若い人たちも今度は協力してもらえらる形になると、幅を広げるといことです。

それと目的意識ですね。この講座を受けたら、図書館のボランティアとして市に協力できる。あるいは、自分は好きだけど、図書に触れる機会が増えると。そういった目的意識です。

いろいろな部署で課題があります。ボランティアが足りない。図書館も足りません。ですから、来年度1年をかけて講座の見直しを行って、目的、その後のフォローができる講座をきちんとつくっていくということで、入ってくる受講生も幅広くなりますし、目的意識を持つことで受講のレベルもアップするという形にもっていきたいと思います。

その成果は、今度は図書館のボランティアで書架整理ですね、ボランティアでやっていただけると、そういった形で活用できます。

また、今大きいのは防災ボランティアです。災害があると、大学生とか、いろいろな方々が一斉に行きますが、逆に言うと困りますね。全くの素人が来ますので。防災ボランティアをしっかりと市としても育てるということ、これは防災の意味から、消防団とか、自主防災、そういったところの取り組みとは、また別のところで、市民が常に災害があった時に、ボランティアとして講座を受けると。

災害があった時、すぐに市とタイアップできて協力できる。あるいは各学校で避難所、避難場所が開設した時に、地域の方々、受講された方々がそこでボランティアとして活動していただける。

または、他の地域にも積極的に活用し、出ていってもらえるというような目的意識とか、市が取り組むべき方向をこの市民大学校の中に取り入れていこうということで考えていますので、今の課題を整理しながら、他の事業とのタイアップも検討していきたいと思います。

○伊澤市長 他にございますか。

○鈴木生涯学習課長 今、市民大学校の関係、それと放課後子ども教室の関係が関連してくる訳ですけど、今年度については、市民大学校の講座の中で、白井第二小学校の放課後子ども教室とタイアップして、放課後子ども教室についても市民大学校の受講生に知ってもらおうと思います。

そういう中で、放課後子ども教室については、一つの事業という形で、タイアップして行ったという経緯がございます。それぞれの事業が、一緒になることによって、理解が深まることになったと思っております。これは、県の北総教育事務所も見学に来ていただくなど、大変良い評価をしていただいたということもございます。

以上です。

○伊澤市長 他にございますか。

○川嶋委員 市民大学校というイメージですと、私たちの子育て世代からしますと、おじいちゃんやおばあちゃんが通う学校というような感覚しかないですね。だから、今おっしゃられた図書ボランティアが欲しいと。若い方がそうすると入ってくるだろうと、まさにそうだと思います。

私たちがそこに行こうという気持ちが、そもそもないと申しますか、どうやって入ったらいいのかもわかりません。ですから、若い方、ボランティアの育成になれば、できるだけ若い方がいいと思いますし、やはり若い方の目にとまるようなPRの方法を考えていかないと。

おじいちゃんやおばあちゃんがいますよねというイメージは変わらないので、それを払拭するようなPRの仕方を検討していただけたらいいと思います。

私も今聞いたら、その図書ボランティアの育成があったら、本当に行きたいと思います。だから、やりたいことはあります。私たち子育て世代でも、すき間の時間にこれをやりたい、あれをやりたいと思っても、それをどう生かしているのかわからないところがありますので、それは目にとまるようなPRをしていただくことで、私たち三、四十代のお母さんたちも生き生きと、白井市で何かやってみようという意欲につながると思いますので、工夫したPRをよろしく願います。

○伊澤市長 大変素晴らしい意見をいただいて、本当に、そうかなというところがありますね。それを踏まえて、よくPRできるようなことを考えてもらいたいと思います。

他にございますか。

○川嶋委員 6ページの中段、家庭教育事業です。白井市教育委員会として、このような事業を行っていて、大変手厚くて素晴らしいことだと思います。

ただし、教育委員会としての限界もあると思います。これは捉えていますけど、授業参観などの後に保護者会が大体設定されていますが、授業参観には、ほぼ保護者は来ます。お母様たちは仕事を休まれて、お父様もいらっしゃる位熱心です。子供の行事に関しては、大変熱心で、おじいちゃんやおばあちゃんまで来る家庭もあります。

ただし、保護者会になりますと、皆帰ってしまうと。私のクラスは37名ですが、参加者は6名程度です。そうすると、保護者会というような形ではないと。それは、私のクラスだけではなく、他の学年でも同様です。1年生は参加率が多少高いですけど、もう5、6年生になると、本当に少ないという状況です。

ですから、子供のことには熱心でも、保護者間の交流とか、コミュニケーションとか、親としてはどうあるべきか、親育てといいますかね。そういう場に行こうという、足が向かないということが、多分七次台の地域だけでは、ないかなと。私が知っている限りでは、友人にも聞きますけど、来ないよね、行かないよねというような保護者は傾向的に結構います。

ですから、家庭教育というのは、本来は気づいて、自分からこれを学ぼうと思ってやるものであると思いますが、そういうものも今の時代は提供しないと、知りもしないというか、目も向かないという感じで、ある程度はやってあげないと駄目かなと思います。

親のトラブルも多いですし、保護者が直接校長に直談判するような場面も何度も見えていますし、そういうような、本来であれば保護者間で解決するもの、その前に家族ですね。家族の中で夫に話して、子供と話して解決することが、直接学校にその矛先が向くと。

何がいけないということをやはり外部に求めてしまう、最近の保護者の傾向として、私はあるように思います。ですから、家庭教育事業の推進というのは、本当にお願ひしたいところです。私は、これはこれでいいと思います。

私が言いたいのは、こういうことを各PTAですね。単体のPTAでも、こういうものをぜひ取り入れてほしいと思います。学校によっては、こういう家庭教育をやっている委員会も存在するとは思いますが、存在しないところもあると思います。ですから、単体のPTAでも、こういうような講座を年に2回でも取り入れてみるとか。学校は保護者のため、子供のためと思いがちですけど、それでも、その子供たちをより良い教育、学校の理解を得るためにも連携して、PTA連絡協議会さんでもやっているとは思いますが、年に1回位ですかね。さらに、各PTA団体でも、こういうような取り組みをできるだけ取り入れるような方向で考えてもらえないだろうかと希望します。

私自身はやっていますが、できるだけ他の学校でも、こういうことは積極的に取り入れていただきたいと思っています。

以上です。

○伊澤市長 素晴らしいですね、また前向きの良い意見をいただきました。

この意見に対して、何かありますか。

○鈴木生涯学習課長 ただ今、ご意見がございましたように、PTAや学校に関しては、今後もより一層の連携を図ってまいりたいと考えます。

○伊澤市長 その他、生涯学習分野でご意見等はございますか。

ないようですので、次にスポーツ分野、9ページになります。

この関係で、ご意見等がございましたら、お願いします。

これは、総合型スポーツクラブの方でも出ましたので、これは済んだということで、次に文化芸術分野に参りたいと思います。10ページからになります。

それでは、私からいいですかね。先程、言ったように小学校と中学校、また市民大学校でも3学部を受け持っていて、導入は全て白井の歴史から入ります。その歴史の最初が、旧石器時代の2万7,000年前の遺跡として尖頭器、やりの穂先が見つかりましたけど、その話から入っていきます。皆、子供も大人も目を丸くしてびっくりしています。残念ながら、この石器が白井にはないです。県の教育委員会で保管されています。確か三、四年前に、一度郷土資料館で展示をしてもらったことはあります。いろいろと聞いたら、市で保管する場所がないとか、いろいろな問題があってもいいけれど、やはり自分たちのまちの歴史を知るといのはすごく大事なことで、牧とかは皆さんの間で、だんだん広まってきましたけど、旧石器時代から人がいたという証拠がありますので、できれば市民の方々にPRできるような機会を増やしてもらえればと思っています。

これは希望ですけど、大変なことだと思います。2万7,000年前にこの白井市に人がいたという証拠が出たというのは、ほとんどの人が興味を持つ話ですね。そういうことをできればと思っていますけど、いかがでしょうか。

○小松教育部参事 文化課の担当としましても、白井で、例えばニュータウンなどで発掘されたものについては、ほとんど県の方で保管しているような状況で、ただし県の方でもスペースが現在足りなくて、要請があれば、各市町村にそれを帰したいという意向はあるようです。

当課でも、桜台の砂鉄資料について、今、大多喜城の近くに保管されているという状況がありますので、それについては、何とかスペース取りができそうなので、市で早急に移管を受けて、文化財に指定して、皆さんに見ていただくような考えでございますので、できるだけそういう方向で、担当課としても取り組んでいきたいと考えております。ありがとうございます。

○伊澤市長 ぜひ、よろしくをお願いします。

その他ございますか。

ないようでしたら、12ページからのその他に入りたいと思います。

ご意見等はございますか。

○井上教育長 その他というか、全体を通しての話になりますけど、今日の話し合いの中で、それぞれの重点施策が充実して進められなければいけないという話が出て、その中で幾つかの事業をつなげるといいですかね。例えば、市民大学校と図書館とか、学校とか、そういうような案が具体的に出されていたということで、私もこの職務になってから、その部分はちょっと感じていました。

それぞれの事業は、今後、充実させる意味では、連携するということと、あとは結合するといひますかね、つなげると。二つの事業をつなげる、三つの事業をつなげるということが非常に大事になってくるという考えを持っています。

そうすると、何が一番大事かということ、それを担当する私たち事務局側にそういう部分もあって、

各課とか、班と班とかが結びついて仕事をしていかないと、それがなかなか発想されない。思いつかないというところがあるので、私は今回、教育委員会の長ということでありますけど、事務局の長という立場でもありますので、その辺の教育委員会事務局内部の仕事の活性化という部分を考えていく上で、課とか、班とか、個人の仕事の連携という部分を、多分どの行政組織でも多いのかなとは思いますが。

そこが課題になっていることは多いのかなと思いますけど、ぜひ、そこはリーダーシップを発揮していきたいと。もちろん、教育委員会と市長部局もそうですけど、組織サイドの方も、また充実させていきたいと思っております。

○伊澤市長 ありがとうございます。項目はその他ですけど、その他以外を併せて、ご意見やご質問等があればお願いします。

○高城委員 10ページの市民文化祭開催事業ですが、児童生徒の作品の展示、来年度は白井コミセンで今回だけは行うということですけど、現在でも、やはり自分の子供とか身内が出ていないと、ほとんど見に行かないというか、本当に自分の子は出たことはないけど、出たらもう喜んで見に行く。やはり見に行かないと思います。ですから、観覧者というか、見に来る人は多分少ないと思いますので、これは何かにつなげて、ついでにちょっと見てみようかみたいな感じにつなげて、これもいいのではないのでしょうか。

○伊澤市長 今の意見に対して、何かありますか。

○小松教育部参事 今回は、庁舎移転の関係で文化会館のスペースが制限されるということで、例年は、中ホールで小中学校の作品展示、隣の研修室と併せて、二、三日の間、展示しておりました。

次年度は、こちらの会館に議会事務局等が移転するため、スペースが全くとれないということで、今回、小中学校部分については、白井コミュニティセンターで展示するということにならざるを得ないという状況で、そうさせていただく予定です。

より多くの市民の方に、来ていただきたいという気持ちはありますので、白井コミセンと調整しながら、そういったことも考えながら、進めればと考えております。ありがとうございます。

○伊澤市長 私からですけど、展示する点数というのは、各学校によってもう決まっていますか。

○小松教育部参事 ある程度、学校で選抜してもらってやっています。

○伊澤市長 確かに自分の子が出ていけば行きますよね。

○高城委員 はい、そうです。

○伊澤市長 だから、それが余り絞ると、本当に一部の人しか行かなくなってしまうということになりますよね。

○高城委員 もったいないですね。

○伊澤市長 それでも、学校ごとにやっていますか。学校ごとに絵画の展示とか、書道の展示とか。それは他の保護者も見られますか。

○川嶋委員 はい、そうです。授業参観の際に見る感じですかね。

○伊澤市長 なるほど。そこから、いいものが市の文化祭に来るというようなイメージですか。

○川嶋委員 私のように大規模というか、大きな学校ですと、皆の中に金色が張ってあるだけで、さほど目立ちません。ただし、学校訪問に行くと見ると、第二小でいうと、もうすごくきれいに飾られているので、この子の作品が入賞したねということは明確です。けれども、大きな学校ほど、わかり

にくいです。このお子さんがこういう賞をとったということは、非常にわかりづらいということがあります。

○伊澤市長 いろいろと難しいところもあるでしょうね。

他にございますか。

それではないようですので、時間も大分過ぎており、この会議は年2回ということですので、また次回の会議にいろいろなことを持ち寄って、子供たちの教育、そして市のまちづくりのためにご尽力を願えればと思います。

事務局の方々は、本日、委員さんからいろいろな意見が出ましたので、それについてよく検討していただいて、取り入れるものはどんどん取り入れて、さらに進めていただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして、平成28年度第2回 白井市総合教育会議を終了します。

ありがとうございました。

午前11時50分 閉 会